

■前回（10/18）協議会の意見

■施設

- ・下段広場にもベンチを拡充する
- ・転落防止柵は縦桟タイプとする
- ・斜面の飛び出し防止は案①（縁石タイプ）とする
- ・子どもの移動経路を考慮して照明計画を検討する
- ・上段広場に親子トイレを検討する

■遊具、健康遊具

- ・窮屈にならない程度で安全範囲を確保した遊具の配置方針とする
- ・健康遊具は機能を詰めて削減を検討する

■植栽

- ・植栽は季節感を大事にし、検討する

■その他

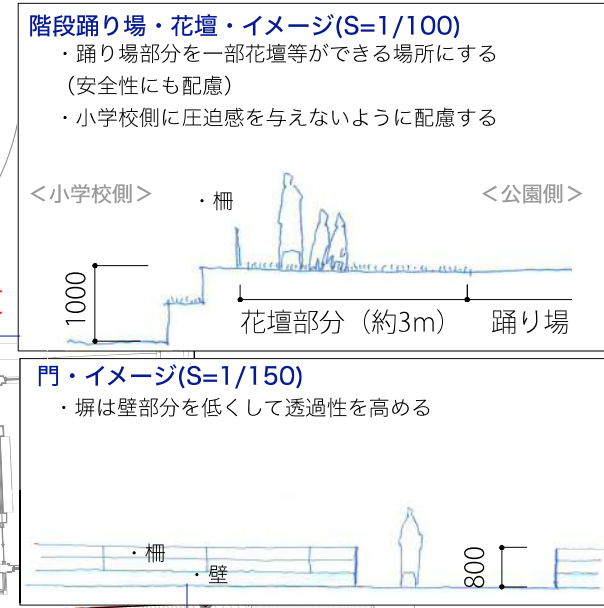
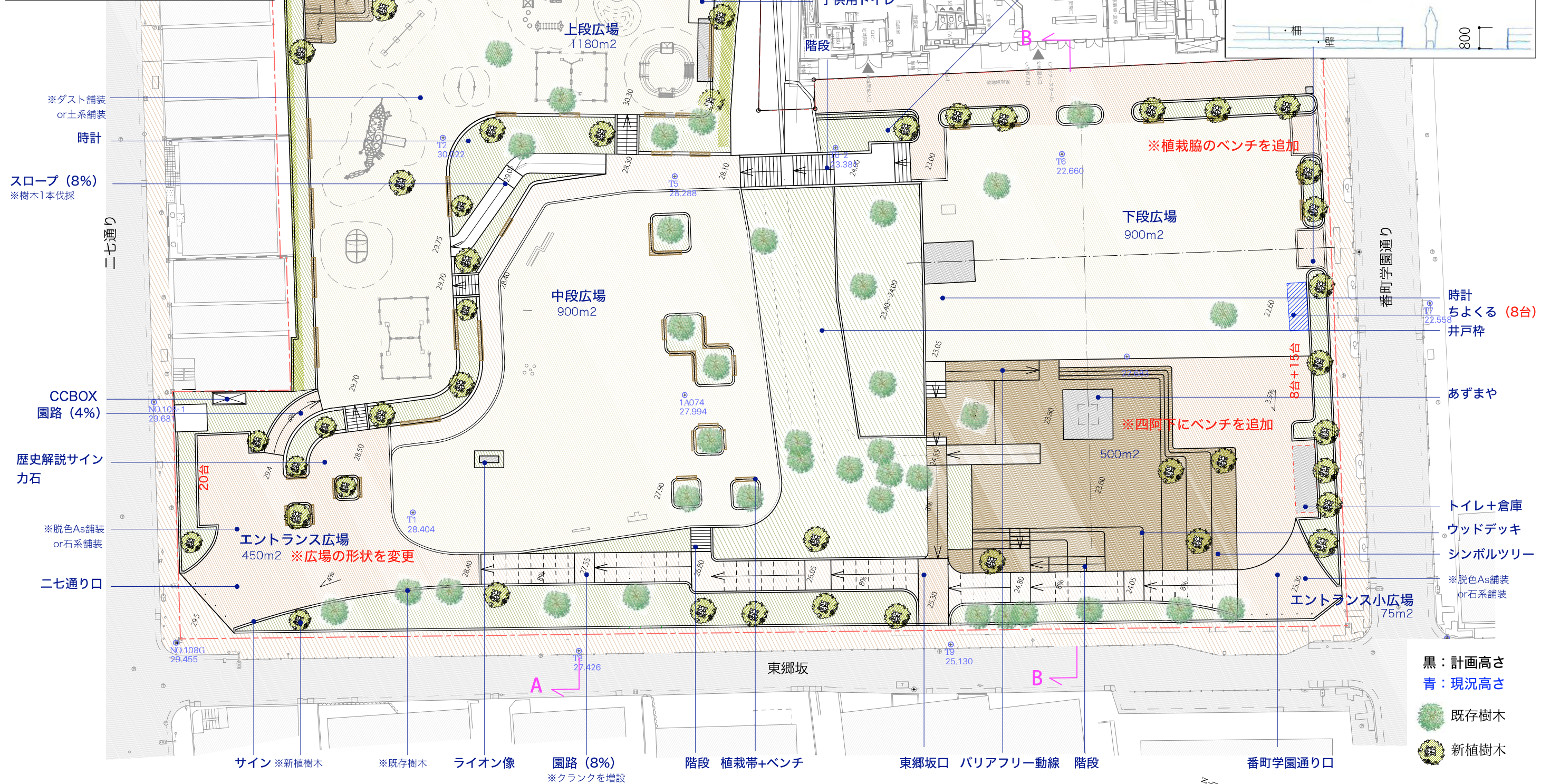
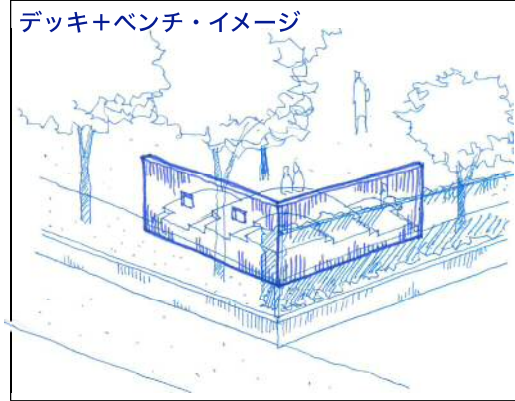
- ・排水について検討する
→詳細設計の中で配慮する



前回意見に修正対応するとともに、以下の具体的提案を行う

- ・舗装
- ・照明
- ・施設
(ボラード、転落防止柵、手すり、キャノピー、四阿、時計)
- ・ベンチ
- ・ウッドデッキ
- ・植栽



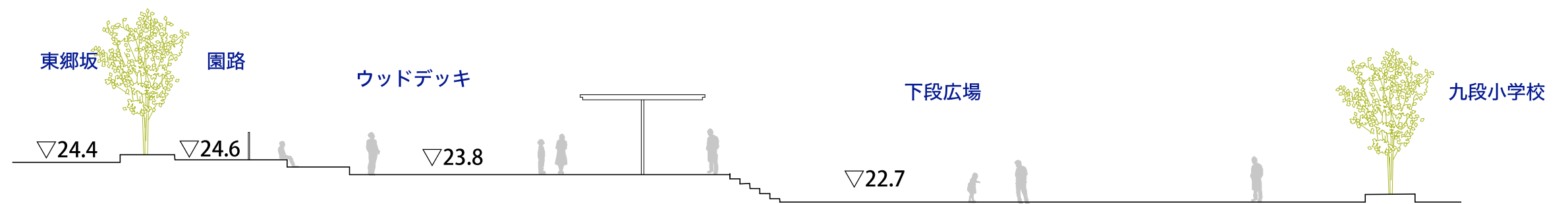


断面図

■A-A断面図 (S=1/200)



■B-B断面図 (S=1/200)



防護柵・車止め配置案

- ・勾配が5%を超える箇所には手すりを配置する
- ・極力、転落防止柵が出ないように設計上の配慮を行う
- ・柵や車止めのデザインについては、公園全体のデザインに合うようシンプルなものを選定する
- ・素材及び色彩は数を増やさず、公園全体での統一性を図る

■四阿・キャノピーイメージ

- ・利便性が高くシンプルなデザイン



■車止めイメージ

- ・直線を用いたシンプルなデザイン



■転落防止柵イメージ

- ・鉄を素材にを使ったシンプルなデザイン
- ※縦桟に変更



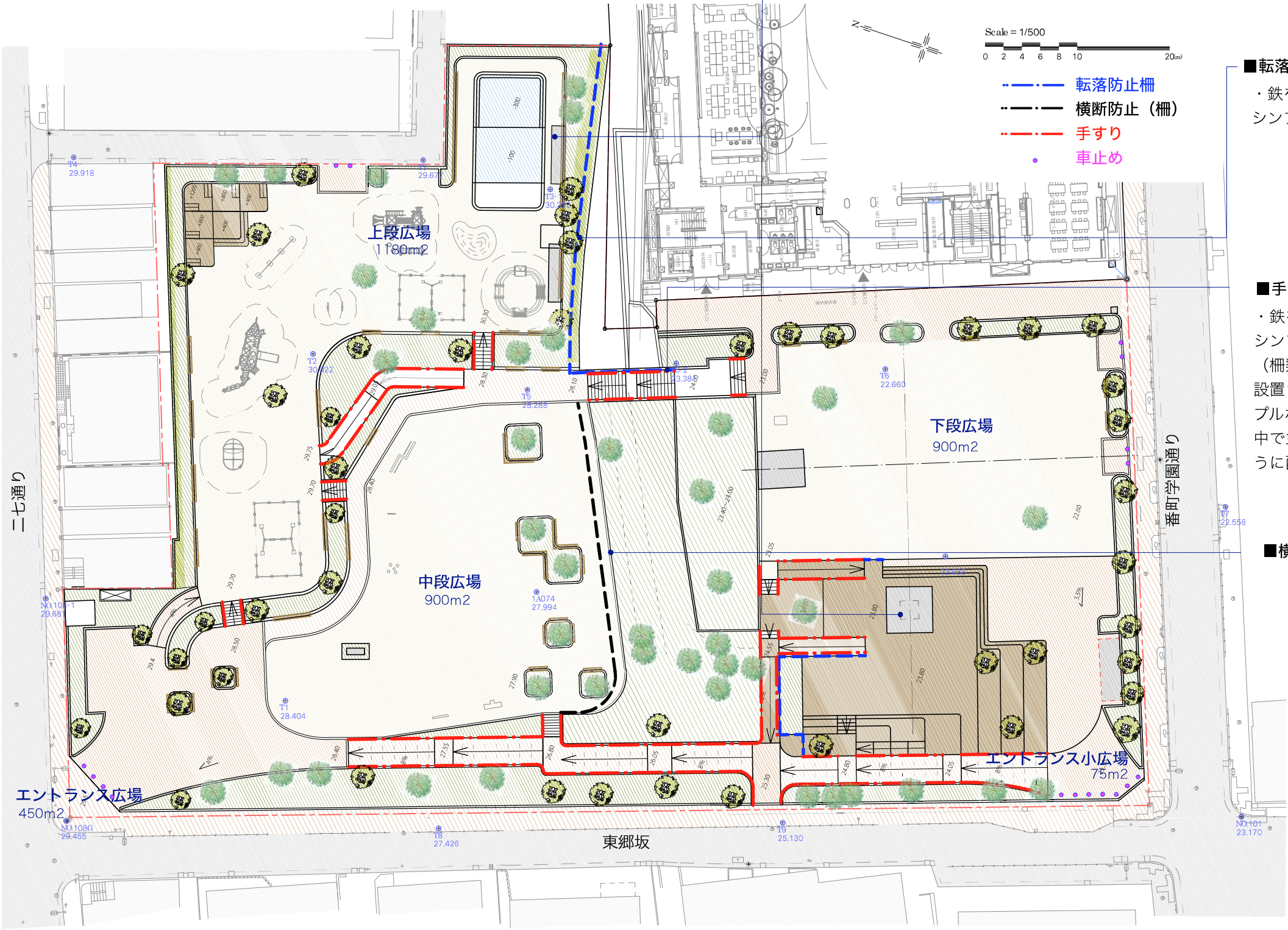
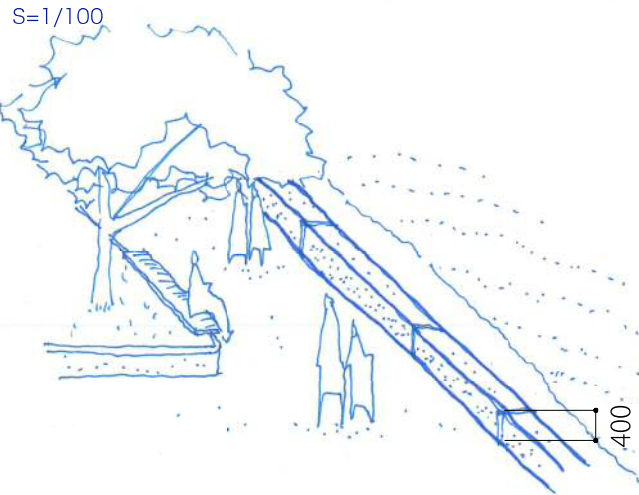
■手すりイメージ

- ・鉄を素材にを使ったシンプルなデザイン
- (柵類の中で最も多く設置されるため、シンプルなデザインで公園の中で主張しすぎないように配慮する)



■横断防止イメージ

- ・縁石により横断防止のを明示する
- ・乗り越えて斜面にアクセス可能



防護柵・手すりの比較

- ・勾配が5%を超える箇所には手すりを配置する
- ・極力、転落防止柵が出ないように設計上の配慮を行う
- ・柵や車止めのデザインについては、公園全体のデザインに合うようシンプルなものを選定する
- ・素材及び色彩は数を増やさず、公園全体での統一性を図る

	転落防止柵 H=1100mm		手すり H=850mm(上段)、650mm(下段)	
仕様	鋼製	木製	鋼製	合成木材
事例写真				
景観性	○ 鋼材を組み合わせた シンプルなデザインであり、公園に馴染む	○ 温かみのある素材感で公園に馴染む	○ 鋼材を組み合わせた シンプルなデザインであり、公園に馴染む	△ ウッドデッキ（木材の場合）との相性が良くない
維持管理性	錆が発生した場合、再塗装が必要 ※塗装の仕様により再塗装のタイミングは異なる	約5年に一度、樹木保護剤を施す必要がある	錆が発生した場合、再塗装が必要 ※塗装の仕様により再塗装のタイミングは異なる	約20年程度で部材の交換が必要
耐久性	○	△	○	△
その他	鋼製の手すりと一体化可能	－	鋼製の転落防止柵と一体化可能	－
経済性	○ 初期費用は比較して高いが、 ランニングコストは低い	△ 初期費用は比較して低い、 ランニングコストは高い	○ 初期費用は比較して高いが、 ランニングコストは低い	△ 初期費用は比較して低い、 ランニングコストは高い
総合評価	◎ 適している	× 適していない	◎ 適している	× 適していない